

正月の松飾りがはずれ、賀状の整理も終わり、いつも通りの日常が戻った感のあるこの時期に、編集後記を執筆しております。昨今は、スマートフォンでの情報収集や電子メールでのやりとりが一般化していますし、年末年始の諸行事も簡略化されつつあります。歳の瀬や正月といった日本の国ならではの特別な雰囲気も、大分、薄れてきています。

そんな中、本年は「年号」が変わる年、ということが大きな話題になっています。職場での文書や議事録には年号と西暦を併記するという対策が取られている一方、面倒なので西暦に統一してはどうか、などという意見も出ています。

小職を含め、年号については知っているようで、知らないことが相当に多いようです。そこで、調べてみました。

日本で最初に年号が使われたのは、あの大化の改新でよく知られている「大化」(645年)ということですが、当初は継続的には使われていなかったようです。年号が継続的に使われるようになったのは、律令体制が整備された「大宝」(701年)からです。年号の始まりは中国(漢の武帝:西暦紀元前140年)で、その影響を受けた国々で使用されていましたが、現在では日本以外の国では使用されていません。したがって、日本は世界で唯一、長期的かつ持続的に年号を用いている国ということになります。

「年号」を使うことによって、われわれは、過去の時代時代を、1つの共通したイメージで捉えることができます。「天平」という年号からは、平城京での大仏開眼の荘厳な儀式、薬師寺・唐招提寺などの大寺の建立の場面が浮かんできますし、そこに集う人々の息づかいが聞こえるようです。「元禄」では、戦乱が遠い昔となった江戸ののどかな風景や、芭蕉が奥の細道に旅立つ姿が思い起こされます。小職には、年号を使う世の中は、西暦だけの世の中よりも、想像力を膨らませることができる、ちょっと贅沢な空間のように感じられますが、皆様はいかがでしょう?

さて、本誌の特集は「腰やお尻の痛み—非腰椎性腰殿部痛の診断と治療」です。「腰殿部痛」という言葉は、われわれに1つの共通したイメージを与えます。脊椎外科医であるわれわれはまず、椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症などの腰椎疾患を連想してしまいます。そこで重要なのが、腰椎疾患と鑑別を要する腰殿部疾患ということになります。これまで個々には報告がありましたが、脊椎外科医が迷う「特殊な腰殿部疾患」について、まとめて論じている特集は見当たりません。その意味で、大変に価値のある特集であると思う次第です。

(山崎正志)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 高橋 昭 金田清志
小山素麿 小柳知彦 田代邦雄
国分正一 服部孝道

編集委員

徳橋泰明(編集委員長)
金 彪(副編集委員長)
青木茂樹 亀山 隆 園生雅弘
高橋敏行 高安正和 田口敏彦
谷 論 中村雅也 根尾昌志
飛驒一利 松山幸弘 山崎正志

Vol. 32 No. 2
(2019年2月25日発行)

毎月1回25日発行

1部定価(本体2,300円+税)

(配送料別)

年ごめ予約購読料30,700円+税

送料弊社負担

発行/株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>

(担当:山岸)

印刷所/三報社印刷株式会社

TEL 03-3637-0005

広告申込所/

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.

6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2019,

Printed in Japan

JCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。